

令和元年 5 月吉日 副理事・所長 海老澤政昭

平成が終わり、令和の時代になりました。個人的にも、この平成の時代と共に富士市での生活が始まり、この令和の 1 年目に法人及び事業所の転機を迎えたことを考えると、ひとつの時代の終わりとなつた時代の誕生という節目を重く感じざるを得ません。

さて、事業所の今年度目標は下記の通りです。

(1) 支援スタイルの確立を目指す。(支援デザイン、個別支援計画、支援案等々の作成) ⇒支援デザインとは、支援員及び指導員の仲間たちひとり一人に向けた「おもい」を指しています。今年度は、その「おもい」を文章化し、個別支援計画に組み込んでいきます。また、仲間たち自身も振り返りを通した「おもい」を支援計画に加えていきます。

(2) 内部研修の充実を図る。(発達を保障すべく理論学習の推進) ⇒今年度から定例として事例検討会の開催を図ります。

(3) GDC あゆみを作成する。(実践報告)

⇒今年度の目玉として行います。法人及び事業所の今までの経緯を振り返り、特に、実践面での振り返りを「あゆみ」として文章化していくこととなります。また同時に、穴戸幽香里先生(音楽療法士、臨床発達心理士)の協力を得て、コンサルテーション(ごうでいんぐの実践を専門的視点から分析してもらう)を行います。法人及び事業所のみならず、支援員及び指導員個々人も厳しく振り返りを行う 1 年と位置付けています。

(4) 保護者との連携を進める。(サロン及びまとめの会等)

(5) 地域主催の行事等への参加及び事業所主催の行事への勧誘を図る。

(6) 防災計画の充実を図る。

⇒今年度は炊き出しを実施する予定です。

(7) 2019 年度事業再編を推進する。

⇒多機能型事業所ごうでいんぐ岩ヶ原開所に向けての準備を中心に取り組みます。

これらの目標(特に(1)から(3))の精神的支柱ともいふべき大切なこと(ことば等)を述べておきたいと思います。

- ① 1969 年に開校した与謝の海養護学校の学校づくり運動の理念「学校に子どもたちを合わせるのではなく、子どもに合わせた学校をつくろう」この 10 年後に養護学校は義務化されました。② びわこ学園初代園長岡崎英彦氏のことば「本人さんはどう思うてはるんやろ」
- ③ 糸賀一雄氏のことば「障害者との共感の世界を持つためには、自分の内面を直視することがいかに大切か」(⇒自己自身との対決)
- ④ 白石恵理子氏(みんなのねがい;成人期の仲間たちが教えてくれること“集団の中で自分らしく”より、田中昌人氏の「人格の解放」の大切さを述べつつ、「集団のなかでひとり一人を大切に、同時にひとり一人を大切にできる集団づくり」の重要性これら以外にも大切なことはたくさんありますが、特に内部研修の中でも継続的に確認することが上記の 4 点です。私たちは、これらのおもいを大切にしつつ、今までの経緯をまとめ、さらなる今後のあゆみにつながるおもいを紡いでいきたいと思っています。

《人事異動の紹介》 新しく各事業所へ配置されました職員です。よろしくお願いいたします。

通所生活介護 3名の異動

原田デイ 3名の異動

今泉デイ 1名の異動

(保護者方へは顔写真でお知らせいたしました。)

【編集後記】

新年度の始まりと同時に「平成」から「令和」へ、時代は変わりつつあります。そんな雰囲気にも呑まれ、流されず仲間と一緒に一歩一歩少しずつ歩んで行けるよう、職員一同頑張ります。保護者の皆様もご協力いただけますようよろしくお願いいたします。

担当 三輪